

教育研究所だより

宮古島市立教育研究所
 所長 平良 善信
 宮古島市平良字西里1140
 TEL 73-1104

『ワークシート』されど「ワークシート」

本号では、狩俣小学校が取り組んでいる総合的な学習の時間（単元名「狩俣の文化と歴史・漁師」）で活用しているワークシートの工夫・改善について紹介します。授業で何気なく使っているワークシートも、工夫次第では子供達の「思考力、判断力、表現力」を最大限に高める指導に結びつけることができます。

宮古地区の児童生徒の弱点の克服に向け

令和3年度全国学力学習状況調査において、本地区の課題として、次の2つのことが課題として浮き彫りになった。

- 課題1 「子供達の言語能力の育成」に係る『語彙力』『論理的な文章を書く能力』
 課題2 「子供自身が自ら学習を調整し、主体的に学び続ける力」に係る『自ら問い（課題・疑問）を持ち学習に向かう態度』『友達と対話する力』『メタ認知能力』

上記の課題は、短期間で解決できるものではなく、長期的スパンで改善を図っていくしかない。しかしながら、教師によってはなかなか改善されない状況に対する焦りもあり、日々実践していることに改善の糸口を見つけるのではなく、「〇〇で身につけさせる□□方法」など新しい文献にその改善策を求めることがよくある。

このように新しい指導方法を模索することも大事なことであるが、長年にわたって行ってきた指導方法を各学校の児童生徒の学習状況（弱点）や宮古地区の課題等を視点に見直し、工夫・改善を図っていくことがより重要ではないだろうか。

以下、狩俣小学校のワークシート作成にかける思いを紹介する。



体験会プログラム



担任下地佑弥先生



福島昌子教授

5, 6年複式学級担任の下地佑弥先生は、「ふなづり体験」を体験で終わらせないよう左記の体験会を開催し、その中で「感想タイム」と称して、児童に感想を書かせる場面を設定した。

「ふなづり体験」など、体験活動を終えた児童生徒に感想を書かせる際、ただ単に感想の欄を設けたワークシートを配布するのをよく見かける。担任の下地佑弥先生においては、今回の体験活動を児童の大きな成長に活かしていきたい思いから、次の2つをねらい（① 友達と対話し主体的に学ぶ児童の育成 ②自ら問いを持ち探求する児童の育成）に、福井大学大学院教授福島昌子先生から指導助言を頂きながら、ワークシートを作成した。

（次のページのワークシートを参照して下さい。）

『ワークシート』されど「ワークシート」のタイトルにあるよう、教師が何を視点にワークシートを作成し授業するかによって、授業の質は異なってくる。ワークシートの作成は、指導方法の工夫・改善の一例であるが、宮古地区の教師一人一人が、これまで行ってきた指導方法を吟味し、「今日の授業は、子供達にどのような資質能力を育成することをねらいに行うのか。ねらいを達成するには、どの指導方法が有効か」など、自問自答しながら明確なビジョンを持って教壇に立つことが、今、求められていると強く感じる。

「宮古島の児童生徒の課題克服」及び「体験学習から探求活動の展開」を目指したワークシートの工夫の事例（狩俣小 総合的な学習の時間における振り返りシート）**1 今日の活動の中で、以前から知っていたことは何ですか。**

＜宮古地区全体の課題2への対応＞

児童に体験学習前の自分自身を振り返らせ、体験学習前と体験後の変容を意識させる設問

2 新しく知ったことは何ですか。また、もっと知りたいと思ったことは何ですか

＜宮古地区全体の課題2への対応＞

自ら問い(課題・疑問)を持ち学習の向かう意欲・態度を育成する設問

3 不思議に思ったことやわからなかったことは何ですか。

＜宮古地区全体の課題2への対応＞

自ら問い(課題・疑問)を持ち学習の向かう意欲・態度を育成する設問

※ 設問1～3を設けることによって、

- 自己を振り返り学習を調整していく力(メタ認知能力)の育成することができる。
- 体験学習を児童が問いを持ち探求する「探求学習」へ発展させることができる。

4 「ふなづり」に参加してのあなたの感想や考えたことを書いてください。

＜宮古地区全体の課題1、2への対応＞

1～3の設問で十分に振り返りをさせた後、改めて感想を書かせることを通して、

- メタ認知を育成し、主体的・自律的に学ぶ意欲・態度を育成する。
- 語彙力及び論理的な文章を書く能力を高め、言語能力を育成する。